

きらり 男みんな女 コーナー

第17回

このコーナーは、曾於市に住む鹿児島県男女共同参画推進員が、曾於市のいろんな方々にインタビューするコーナーです。

「人のために、何か役に立ちたい」
と思ってはじめました。



末吉町大沢津 福永工房

福永 道子さん



ガネ作りの様子。ひとつひとつ、丁寧に形を整えてフライヤーへ



たくさんの調理器具が並ぶ工房内。あくまきを作る大きな釜はなんと5升用！



ふくれ菓子と揚げたてガネのおもてなしで、話がはずみました

「みっちゃんのガネ」で知られ、数々のコンクールやテレビにも出演されている福永さん。工房を始めて11年、これまでの活動についてお話を伺いました。

工房をはじめたきっかけは？

岩北地区には私より年配の方が多く、地域の人たちのために何か役に立ちたいと思って、はじめました。それと、主人とふたりでやりたいって気持ちも。この工房はもととおじいちゃんの隠居だったんですが、空いたままではもったいなかったからというのがありますね。

どんな商品を作られているんですか？

私は、あくまきとか、季節のものをよく作りますね。材料の都合もありますけど、やっぱり季節にあわせた商品の方を、お客さんは

手にとってくれます。「ガネばかり」と思われたくないから(笑)。

「福永工房」と名付けたのも、保健所の人に「工房ってつけられば、色々な種類のものを作れますよ」って教えていただいたからなんです。

家族の協力はありますか？

私が出来ないことは、主人が手伝ってくれます。みんなが私に「よく精(せ)をいれたね(よくしつけたね、という意味)」って言いますが、そうじゃなくて自主的にしてくれるんです。釜も一生懸命洗ってくれるから「今日は忙しいから、そんなに磨かなくてもいいよ」って言うの。よくしすぎるんですよ(笑)。

イベントで忙しい時は、息子のお嫁さんも加勢してくれますよ。

【取材】

島子正一郎 末永順子
馬場雅子 牧元宝治

仕事を始めてよかったことは何ですか？

60歳を過ぎてからでも、色んな人に出会えて、話ができることですね。みんなが私の名前を呼んでくれるのが、とても嬉しいです。11年続けられたのも、やる気だけじゃなくて世間のみなさんのおかげですよ。

今後についてたずねたところ、「自分が作ってきたものを後世に引き継ぎたい。自分で言うのもなんだけど、もったいないと思って(笑)」と話された福永さん。「人のために役に立ちたい」という気持ちも、ガネの味とともにぜひ受け継がれて欲しいです。